地域共生学科食物栄養コース・食物科栄養士コース

3ポリ在学生評価				3ポリ外部評価（事業所）			卒業生による短大での学びの評価	
実施日	1月28日			実施日	2月3日		実施日	11月23日
学生の学年・人数	2年3名			事業所名	株式会社グリーンヘルスケアサービス		卒業年度、就職先	令和5年度　食物科栄養士コース卒　南福岡保育園勤務（栄養士業務）
DP	DPの理解度	5	・2年間の中で行われたアンケートや4月のオリエンテーション等を通じてよく知っている。 ・内容についてもある程度把握し、理解している。	DP	5	ルーブリック評価において、レベル4に到達する学生がいれば望ましい。 コミュニケーション能力は在学中はもちろんのこと、就業後においても継続的な指導と自己研鑽が求められる重要な能力である。特に調理実習などのグループで活動する場面において、他者に任せるのではなく、自ら主体的に行動できる学生は、就職後においても積極的に行動できている傾向があるようだ。	役に立った学修	・給食施設における衛生管理 ・大量調理を行うための調理技術 ・給食に関する授業
	到達目標としての適切さ	5					不足していると感じた知識・技能	・給食業務で使用する専門機器の操作経験、知識 ・献立作成のための知識、技能
CP	CPの理解度	5	・4月のオリエンテーション等で見たことはあるが、学生生活の中で意識する機会は少なかった。	CP	5	特に指摘すべき点はない。	学外活動への参加	積極的に参加しなかった
	評価方法の適切さ	5					役に立った学外活動	・地域活動の中で接した地域の人とのコミュニケーション
	カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5					学習習慣の必要性と形成	あまり必要ない 大変身についた ・実習等で課されたレポートの作成 ・試験勉強
AP	入学前の意識	4	・推薦入試で受験した学生と一般入試で受験した学生では意識する程度の差がある。 ・入学前に全く見ていないということはなかった。 ・「栄養士として活躍したい人」については、栄養士に興味があるがなりたいとまではいえない高校生や、栄養士以外の食や栄養に関する専門職を目指す学生もいるはずなので、考慮してほしいという意見があった。	AP	5	特に指摘すべき点はない。	最も役に立ったこと	給食の授業と実習 ・栄養士業務に必要な知識や技術 ・特に大量調理を行うために必要な知識や技術
	入学前の目標としての適切さ	5					教育内容に対する希望	特になし 自分が学んだ内容を継続してほしい
所感	・カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーに関する認識は一定程度向上しているものの、それらと各科目との具体的な関連性について理解を深める機会が十分とは言えないのではないかと感じられた。 ・今回の対象者3名はいずれも長崎国際大学への編入学を予定している学生であった。そのうち国際観光学科へ進学予定の学生も含まれており、アドミッションポリシーの在り方に関する意見が出たと考えられる。実際には栄養士資格を必ずしも必要としないものの、栄養や食に関する学びを生かして食品企業やスポーツ関連分野への就職を希望する学生もいることから、今後の検討課題としたい。			所感	三つのポリシーすべてについて、概ね肯定的な意見をいただいた。 卒業生に関する意見としては、コミュニケーション能力について、就業後も継続的に向上させていく必要があるとの指摘があった。 また、就職に際しては、受託給食会社と直営の給食施設との業務内容の違いを十分に理解する機会を設けてほしいとの要望が示された。特に、受託給食会社では利用者等と直接接する機会がほとんどない場合もあるため、その実態をあらかじめ認識しておくことが重要であるとの意見があった。		所感	本学に対して非常に良い印象を抱いている卒業生でした。カリキュラムや各授業の内容についても、総じて高い評価をいただきました。今回のインタビューを通して、彼らが学んできた内容を今後も継続していくことの重要性を改めて実感しました。

地域共生学科製菓コース・食物科製菓コース

実施日	2月19日			実施日	1月8日		実施日	1月8日
学生の学年・人数	2年2名			事業所名	(株)レゼルイリゼ		卒業年度、就職先	令和6年度卒　長崎マリオットホテル　パティシエ課
DP	DPの理解度	5	・日常生活では意識していないが、毎年４月に説明があったこと、教室に掲示されているのを見ることがあった ・製菓実習やイベントの際に、Ⅲコミュニケーション能力の必要性を強く感じた	DP	4	実習に取り組む姿勢は真面目だが、現場で一番大事な「返事」や「挨拶」が身に付いていない学生が目立つ。 技術よりも先に働くためのコミュニケーションを徹底したい。	役に立った学修	製菓実習
	到達目標としての適切さ	5					不足していると感じた知識・技能	特に感じていない
CP	CPの理解度	5	・製菓の実技試験のレベルは、職場で求められる技術を考えるともう少し厳しいほうがよいのではないかと思う ・製菓実習の内容について、１，２年生少し重なる内容があるので、見直すことでより多くの製品を作れるようになると思う ・総合演習Ⅱは、マジパンと商品開発のいずれかを選択しなければならないが、両方を選択したかった ・カフェ学の授業は、もう少し多くして、ラテアートの技術アップに繋げたかった	CP	5	技術や理論だけではなく、「指示に対して声を出して反応する」といった現場の ルールをもっと厳しく指導に組み込むべき。 無言の癖が付くと将来の就職先で苦労します。	学外活動への参加	積極的に参加した
	評価方法の適切さ	5					役に立った学外活動	インターンシップ 卒業後の将来像を描くことができ、就職先決定につながった。 また就職後、業務の流れを理解しやすかった。
	カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5					学習習慣の必要性と形成	ある程度必要 製菓実技試験、製菓衛生師国家試験への学修
AP	入学前の意識	5	・短大のHPで内容を確認した	AP	4	単にお菓子作りが好きというだけではなく、他人のアドバイスを素直に聞き、声を出して反応できる学生を求めて欲しい。技術は後からついてきますが返事や挨拶の基本入学段階から意識させたい。	最も役に立ったこと	製菓実習 現場での仕込みの作業がスムーズにできている
	入学前の目標としての適切さ	5					教育内容に対する希望	特に希望はない
所感	・短大生活をほとんど欠席していない日本人と、留学生に依頼し意見を求めた。 例年通り、日常的にDPに触れる機会がないが、今年度は２年生もオリエンテーションでディプロマサプリを渡す際に説明したことをなんとなく覚えていたようである。 各項目を説明すると理解してもらえるが、日常的な指標として身近ではなく、各教科でも触れていかなければ浸透しないのではないだろうか ・今回留学生より、学内の製菓技術の試験レベルを検討してほしいと要望があった。地域で活躍する人材育成と配慮を要する学生へのケアの双方から基準が難しいが、成績優秀者への対応も再度見直しが必要と考える			所感	指導に当たる技術者としての目線から、現場における心構えや対応、返事や挨拶といった社会人として必要な基本的な行動に対して貴重なご意見をいただいた。 今後の学生指導について、いただいたご意見を活用し製法や技術指導だけではなく、現場で必要とされる社会人として挨拶や礼節をわきまえる事ができる人材育成を目標とした指導を徹底、実施したい。		所感	在学中、成績優秀また学友会メンバーとして様々なイベントに協力してくれた卒業生である。 １年時、ホテルでのインターンシップを経験し、ホテルでの製菓業を志すことになった。 現在１年目にして、製品の仕込みの基本を任されており、精神的にも肉体的にも負担が大きいことを語ってくれた。業務に関しては、細かいパイピング技術は練習を必要としたが、それ以外は初めに指導を受けると問題なく業務を遂行できている様子を聞くことができた。 今後の展開を話中で、卒業生から直接口に出されることはなかったものの、社会にどのような仕事があるのか、また将来転職を考えたとき、どのような考え方をすればよいのかを考える手引きが必要な気がした。 専門性が強いコースゆえに他業種のことを説明する機会がなかったが、人生設計について大まかな説明をすることも必要だと感じ

令和6年度　3ポリシー在学生評価、外部(事業所)評価、卒業生による短大の学びに対する評価　調査結果について

地域共生学科国際コミュニケーションコース・国際コミュニケーション学科

実施日	1月7日			実施日	1月15日			実施日	1月15日
学生の学年・人数	2年生3名			事業所名	ホテルフラッグス佐世保九十九島			卒業年度、就職先	令和7(2025)年度卒　ホテル フラッグス佐世保九十九島
DP	DPの理解度	5	各ポリシーについては入学時も意識していて、内容も理解していた。 現在、各教室の後ろに掲示されているが、場所的にあまりよく見えなく内容確認が難しいため、教室の前に掲示しても良いと思う。	DP	5	卒業生は、全く問題はなく、ホテルの即戦力としてしっかりと働いてもらっている。特に、大学側に教育改善や科目等をお願いするものはない。		役に立った学修	・ホスピタリティ、ビジネスマナー ・簡単な英語で海外の方と話せる、言いたいことをヒヤリングできる。
	到達目標としての適切さ	5	GOOGLECLASSROOMや、HRの時間などを活用して、定期的に内容をリマインドできるようにすれば、理解度も高まると思う（GOOGLECLASSなど）					不足していると感じた知識・技能	・数字に弱い。 ・効率を考えながら働くこと。
CP	CPの理解度	5	パソコンやデータに関する内容に基礎的な内容が多い印象がある。卒業後、実務に役立つ内容について引き続き検討が必要だと思った 卒業研究の内容はもうちょっと学問的な（専門的な）内容について追及しても良いと思った。	CP	5	特になし		学外活動への参加	積極的に参加した
	評価方法の適切さ	5	卒業までに語学系の資格である程度の成績を収めるのを義務にしても良いと感じた。（TOEIC０００点以上など）もしくは、在学中に各語学検定を１回以上義務的に受験するようにしたらさらに学習意欲が高まると思う。卒業の要件にしたらハードルが高くなるので、検定科目の単位履修の要件にするのはいかがかと思った。 AWESOMESASEBOの目的を再度検討してほしい（授業に積極的に参加する人と、そうでない人の差があまりにも大きい印象がある） ゼミ活動がないのが意外だった。就職活動でゼミ活動について聞かれたが、回答ができなくて残念だった					役に立った学外活動	・プレゼン大会参加（プレゼン力、話す力、アイディア力） ・地域のイベントの司会（お客様への話す話題のきっかけになった） ・プレゼン力、話す力、アイディア力 ・お客様と話をする際の話題づくりができたこと。
	カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	4						学習習慣の必要性と形成	ある程度必要 大変身についた 自分と向き合う時間をとりながら、どうやったら人の役に立てるんだろうと常に考えながら学んでいました。
AP	入学前の意識	5	入学の基準としてはハードルが低い印象を受けた 語学だけでなく、卒業後の進路まで意識できるよう、就職・進路に関しても意識できる内容があれば更に良いと思った 「5.自立するための職業的知識や専門的スキルを身につけることに意欲のある人」をもうちょっと強調しても良いと思った	AP	5	特になし		最も役に立ったこと	特に、授業以外に幅広い年齢層の方と関わることができたこと。 →プレゼン回数、茶道大会、地域イベント、アルバイト等 年齢を重ねると、自分の'正しい'を作ってしまいがちになり、傷つかなくてもよい方法を考えがちだが、あえて、色々な人と関わっておくことで、相手の気持ちを（お客様や職場の方）を考えながら仕事ができている。
	入学前の目標としての適切さ	5	（その他、学校生活に関する意見） 学内駐車場で駐車する際、駐車線が見えにくく大変だった。整備が必要と感じた 学生寮にも駐車場を確保する必要があると思った					教育内容に対する希望	前に出る子（一定の学生）だけではなく、一人一度は自分の苦手なことでも１回チャレンジが出来る場所や機会を与えることで、新しい刺激で沢山受けることができると思う。
所感	今回の調査に参加してくれた３名の学生たちは、日頃より３つのポリシーに対する理解度や認知度が高い印象を受けた。「卒業認定・学位授与」及び「教育課程編成・実施」はそれぞれの内容について理解でき、方針としても適当であるという意見が多かった。ただ、実際の内容や実施方法については、より実践的に改善することを求める意見が数件あった。「入学者受入れ」についても内容の理解度や妥当性には問題ないという意見だったが、入学後、そして卒業後の自分自身をイメージできるような内容にしたら更に良いと言う意見があった。先生方のご尽力のお陰で学生たちの各ポリシーに対する理解度は昨年度調査に比べて上がっていると感じた。引き続き学生たちの意見を参考にしながら内容を検討して行きたい。そして、提示したポリシーの内容に房わしい質の良い教育が行えるよう、今後とも取り組みたい。			所感	今回の訪問調査では、特に改善すべき点は見当たらなかった。今後も、一歩を踏み出せない学生に対して、教員が適切かつ効果的に背中を押し、それぞれの学生が持つ能力を十分に引き出せるような指導を行っていきたい。			所感	職場上司の方からの評価も高く、問題は全くなく、ホテルの即戦力として、活躍してくれているとのことだった。 本人いわく「職場環境にも恵まれ、生き生きと仕事ができてる。 もともとはそんな積極的な性格ではなかったが、短大で、先生方の勧めや励ましもあり、さまざまなことにチャレンジすることで大きく成長ができた。さまざまな活動を通して、自分で考え、行動できる力を養うことができた。」引き続き、短大での学びをベースとして、職場で活躍し、充実した人生を送って欲しい。

地域共生学科介護福祉コース・保育学科介護福祉専攻

実施日	1月27日			実施日	1月30日			実施日	2月10日
学生の学年・人数	2年3名			事業所名	耀光リハビリテーション病院			卒業年度、就職先	R5（2023）年度卒業　社会福祉法人むすび会　「グループホームいなり」
DP	DPの理解度	5	教室の後ろに掲示してあるため、意識しながら学生生活を送っていた	DP	5	特になし		役に立った学修	日誌を書く訓練が、日々の記録に役に立っている。　具体的には、客観的事実と主観を分けて記載することに非常に役に立っている。
	到達目標としての適切さ	5						不足していると感じた知識・技能	現時点では、特に思いつかない。　障害分野の内容をもう少し詳しく学べたらよいのかと思う。（障害区分やIQ等について）
CP	CPの理解度	5	授業科目の組み立ては、各科目時間数が決まっているので、座学はそのままでよい。しかし、実習においては、就職を考えてたくさんの施設を回りたかった。 高校までは点数優先で成績が決まっていたが、試験の点数やグループワーク、授業態度なども評価の対象になるため、良いと思う。	CP	4	人間力を養う、またはコミュニケーション能力を養うような科目の充実を希望する さらに、応用力をつけるような科目があればよい。		学外活動への参加	コロナ禍の中で、活動はなかった。
	評価方法の適切さ	4						役に立った学外活動	コロナ禍の中で、活動はなかった。
	カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	4						学習習慣の必要性と形成	とても必要 大変身についた 事例研究が役に立った。コツコツと作り上げること、コツコツと勉強することを学んだ。自分が集めたデータから結論を出すことが今の職場でも役に立っている。　具体的には、支援目標の数値化等、支援を数値化することを学ぶことができた
AP	入学前の意識	5	高校での面接の練習時に、すでに知っていた。	AP	4	社会人基礎力、コミュニケーション能力をある程度身につけている。		最も役に立ったこと	・スポーツ科学が大変役に立った。人間の体のしくみ、使い方等今の仕事に大変役に立っている。 ・茶道文化は、日々の生活への考え方を学べた。 ・生活支援Aでは、ボディーメカニクス等ADL支援の基礎を学び、腰痛予防などに役に立っている。
	入学前の目標としての適切さ	5						教育内容に対する希望	座学は大変充実していた。　体育やスポーツ等の科目があると、体を動かして気分転換になるかと思う。
所感	今年度は意外にも、3ポリのことをよく知っていた。今後も意識を高く持たせるために 入学後も意識づけをしていかないといけない。			所感	挨拶ができない、コミュニケーションの取り方の中で、傾聴できない部分が多いなどの意見をもらいました。挨拶・礼儀・約束事を守る・報告など実習などで行わないといけないことが多いため、授業および生活面での指導やアドバイスなどを充実させる必要がある。		所感	短大での学びを活かしながら、現在の仕事が充実していることが調査から感じられた。　また、この春から社会福祉士を目指し、養成校に入学して学修を始めるということである。　在学中からこの相談を受けていたが、早速申し込んでおり、向上心が見られる。職業訓練生として入学し、新しいキャリアに挑戦し、それを楽しんでいるように感じられた。 大変たのもしく思うし、頑張ってほしい。

令和6年度　3ポリシー在学生評価、外部(事業所)評価、卒業生による短大の学びに対する評価　調査結果について

保育学科・保育学科保育専攻	実施日	2026/2/19・2026/2/27			実施日	2月26日		実施日	2月26日	
	学生の学年・人数	1年1名・2年1名			事業所名	CANDYこども園		卒業年度、就職先	令和6(2024)年度卒　CANDYこども園	
	DP	DPの理解度	4	ピアノや歌、ダンスなどのスキルを身に着けたいと思って入学したが、本学は少人数制での授業（指導）や先生との距離が近いため、スキルアップはもちろんであるが、教員や友人に質問がしやすい環境にある。友人同士で話し合いながら実践する機会が多く、コミュニケーションスキルも身についていると実感している。 努力していく具体的な指標として理解できますか？という質問に対してレベル4文章で効果的という文言はどこまですることができたら、そこに該当するかわかりづらい。	DP	4	個々人の資質によるところが非常に大きいと感じています。どのポリシーも職場においても職員に対し、教育指導を継続していく必要があると考えます。 ただ、Ⅰ・Ⅲについては就業継続そのものへの影響が少なくないため、レベルを多少緩和したとしても、社会人としての最低基準を満たすことができれば、実習生・卒業生・就職先(保育分野に限らず)には有益ではないかと考えます。	役に立った学修	①☒アノ。短大に入ってからピアノを始めたこともあり、苦手であったが必死に練習し2年間で身につけレパートリーがそのまま使え、今も活かされている。覚えた、増やしたレパートリー曲が今のレパートリーになっている。 ②☒児担当をしていることもあり、「子どもの保健」で学んだミルクの調乳、おむつ交換、病気の種類、潜伏期間等や「子どもの食と栄養」学んだ離乳食、食事のことが実践に生かされている。両科目で学んだアレルギー対応に関する知識も役立っている。 ③☒実習指導や実習」を通して学んだ日誌、お礼状など文章の書き方、社会人としての言葉遣いなど普段の業務に役に立つ知識を多く学べた。
		到達目標としての適切さ	5					不足していると感じた知識・技能	代表的な教育手法に関する知識。就職先がヨコミネ式教育法を取りいれているため、入職して初任者研修等を受けることにはなるが、就職前に少しでも学んでいたらと思うことがある。	
	CP	CPの理解度	4	理論だけではなく、実践や演習も多い。また、授業内で制作した教材などを使って実際に現場で活用する機会もあり、改善点や自己課題が見つけやすく、一連の流れから達成感を感じることができる。 評価の方法などは、適当だと思うかという質問に対して、授業で評価の方法について説明があるため理解している。 レポートや実技の評価に対しては個人レベルの差があるためフラットに評価してもらいたい。 例としてスポーツ実習について、スポーツができる学生と苦手な学生がいて教員はもともとスポーツのできる学生に対しての評価が高い。(シュートの数で点数化している等説明があっているため)そうではなく学生の参加意欲、努力の過程をもっと評価してもらうことも大切なのではないかと学友同士話をしたことがあった。	CP	5	✓ディプロマポリシーのⅠ・Ⅲを反映されている教育課程であればなおよいと思います。実習生、卒業生、就職先(保育分野に限らず)に有益ではないかと考えます。	学外活動への参加	積極的に参加した ①☒文幼稚園でのお遊戯会のボランティア ②☒がい者施設でのボランティア
		評価方法の適切さ	4					役に立った学外活動	①☒遊戯会でのボランティアは裏方の手伝いをしたが、子どもたちの舞台での様子、先生方の関わり方、そこから見えてくる先生方の指導の過程や子どもたちの頑張りの様子など、お遊戯会の場面しか見ていないが、子どもたちと一緒に喜び、涙していた先生方の姿を見て感動した。自分も子どもたちと一緒にそのような感動を味わいたいと保育職に対するモチベーションが上がった。リアルな現場を見て、リアルな感動を味わった。その経験を活かし、就職してからお遊戯会に向けては見通しを持った関わりができ、子どもたちと一緒に感動を味わうことが出来た。 ②☒がい者という、これまで経験のない、知らない世界を知ることで、社会人として、人を観る視点が広がっていった感じがしている。①☒遊戯会でのボランティアは裏方の手伝いをしたが、子どもたちの舞台での様子、先生方の関わり方、そこから見えてくる先生方の指導の過程や子どもたちの頑張りの様子など、お遊戯会の場面しか見ていないが、子どもたちと一緒に喜び、涙していた先生方の姿を見て感動した。自分も子どもたちと一緒にそのような感動を味わいたいと保育職に対するモチベーションが上がった。リアルな現場を見て、リアルな感動を味わった。その経験を活かし、就職してからお遊戯会に向けては見通しを持った関わりができ、子どもたちと一緒に感動を味わうことが出来た。 ②☒がい者という、これまで経験のない、知らない世界を知ることで、社会人として、人を観る視点が広がっていった感じがしている。
		カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5					学習習慣の必要性と形成	とても必要 大変身についた ・☒大に入学する以前に身についていた学修習慣をベースに勉強していたが、先生方に積極的にコミュニケーションを取りながら勉強方法を教えもらう中で、勉強ばかりではなく、リフレッシュすることの重要性も学び、その方法が身についたことで効率的に学べるようになった（メリハリがつけられるようになった）。	
	AP	入学前の意識	4	入学前にパンフレットで内容を見て共感することが多かった。子どもが好きじゃないとできない仕事であり、理想の保育者を事前に決めてもいた。また、保育者の愛情も子どもにとっては必要不可欠で子どもにとっては嬉しいと思う為、内容を見た時には2年間の学びについてイメージしやすかった。具体的な学生生活へのイメージはあまりなかったが、自分の苦手なこと（制作など）を克服したい、ピアノに関しては習っていたがレパートリーを増やしたい、実習など子どもとの接し方などについても学んでスキルを上げたいと思っていた。実際に1年間を過ごしてみて、教材を作る際に友達から学ぶことが多かった。（切り方の工夫など）また、自分の作った教材を実習で使った際に「もっとこうすれば良かった」と思うことが多く、今後の課題として学ぶことが多かった。人間関係には自身がなかったが（人見知り）、周りから声をかけてもらったことで自分を出せて今となっては問題なく過ごせている。2年生は大変そうであるが、引き続き頑張りたい。学校への要望としては、予定をもう少し早めに教えてほしい。（補講など急に入るが、バイトの調整が大変）と友達が言っている。	AP	5		最も役に立ったこと	①☒習。授業で学んだ知識や技術を現場で実践することにより理解が深まった。また、複数の実習先を体験することで自分に合った職場を選ぶことができた。 ②☒同面談会で他の園のことを知ることができ、実習先も決めることができた。それが就職にもつながり、現在に至っている。人生の転機であった。 ①☒習を通して子どもの保健の授業で学んだことが特に役に立っている。感染症に対する知識であったり、乳児の対応に関する知識。
		入学前の目標としての適切さ	5					教育内容に対する希望	・⑩パソコン、エクセル、ワードの使い方を2年次に学ぶ方が忘れずに実習や就職に活かせる気がする。 ・⑩在学生へのアドバイスとして、合同面談会をうまく使った方が良い。母園にとらわれない方が良い。いろんな園を知って、実習先や就職先を選んだ方が良い。今振り返ると無駄なことはない。すべてが役に立っていると思う。学んだことが全て生きている。現場に出ないとわからないこと。出て初めてその重要性を理解できた。	
	所感	CAとしても面談経験があった学生であるが、入学前より高い意欲を持っており、現在も自分自身のスキルアップに向けて継続できている様子が窺えた。3ポリシーについても内容を理解しており、具体的な行動目標としても明確にとらえ、達成に向けて努力している様子がある。また、自身が苦手とする他者とのコミュニケーションや、保育分野における制作活動などにも積極的に取り組み、克服しようとする姿勢が強くみられた。施設実習や進級後の実習や行事に追われることへの不安も吐露したが、1年間での学びや経験を自信に変えて力を発揮できるよう、引き続き学生支援と指導にあたりたい。 今回、DP・CP・APの資料を確認させ、調査を実施した。CPについて学生は様々思いがあることが今回の調査で明確になった。3ポリシー調査については事前に学生に読み込んでくることをお願いしたが、学生によっては調査を実施しながら説明する必要性も感じている。	所感	近年、多くの実習生を受け入れていただいており、就職者も増えている園であるが、DPⅠ・Ⅲを重視している様子が窺えた。社会人として、保育者としてまず最低限求められているものについて、今の学生のレベルに妥当であるか、改めて検討する必要性を感じた。	所感	在学していた時から学修に対する意欲が高く、常に向上心を持っていたが、短大での学びを活かし就職してもさらに高みを目指している様子が窺えた。職場とのマッチングも良く、その環境に恵まれ自分の力をいかんなく発揮できている。これからさらなる成長が期待でき、頼もしく感じた。

令和6年度　3ポリシー在学生評価、外部(事業所)評価、卒業生による短大の学びに対する評価　調査結果について

専攻科保育専攻	実施日	2月28日			実施日	2月25日		実施日	2月24日
	学生の学年・人数	2年2名			事業所名	天真幼稚園・西彼保育園		卒業年度、就職先	？？年度卒　学校法人天真学園　天信幼稚園
	DP	DPの理解度	4	Ⅰ－②総括的、Ⅰ－④⑥効果的、という表現が、具体的にイメージしづらい。 Ⅱ－①まだ、社会や地域に関わる機会が少なく、難しい。 Ⅱ－③科学的は、論理的のほうが適当であると感じる。 Ⅳ－③社会に伝達は、発信のほうが適当であると感じる。	DP	4		役に立った学修	専攻科在学中はインターンシップで自裁の保育現場で子どもと関わりながら学ぶことができたことで授業で学んだ内容を実践と結び付けて理解することができました。子どもの発達や保育の進め方に関する学びは、日々の保育の中で子ども一人ひとりの姿を理解するうえで大いに役立っています。また、現場で感じた疑問を授業で学び直すことで、より深く保育について考える機会となりました。
		到達目標としての適切さ	3					不足していると感じた知識・技能	実際に保育現場で働き中で、月案や週案、要録などの書類作成については最初戸惑うことも多く、実務に即した書類作成の知識や経験がさらにあるとよいと感じました。また、保護者対応についても、様々な家庭や価値観がある中で柔軟に対応していく力が求められるため、具体的な事例を通して学ぶ機会があると、より実践に活かすことができるのではないかと感じました。
	CP	CPの理解度	4	年間を通して、保育インターンシップを支援する授業内容を充実させてほしい。（劇制作による保育イベントの参加に、授業の多くを使いすぎているように感じる。）専攻科の授業は、全体的には楽しかったという印象が残る。	CP	4		学外活動への参加	積極的に参加した
		評価方法の適切さ	5					役に立った学外活動	海きらら「あまもば広場」での学外活動 限られた時間の中で子どもたちが楽しめる活動内容や構成を考えること、また活動の流れを分かりやすく子どもの伝えることの大切さを学びました。さらに、地域の方々と関わる経験を通して地域とつながる保育の大切さについても学ぶことができました。これらの経験は、現在保育活動を計画する際やこどもたちに活動内容を分かりやすく伝える際に活かされています。
		カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5					学習習慣の必要性と形成	とても必要　ある程度身についた 授業でのレポートやインターンシップの振り返りなどを通して、じぶんで調べたり考えたりする習慣が身についたと感じています。また、現場での経験と授業での学びを結び付けて振り返ることで主体的に学ぶ姿勢を養うことができました。
	AP	入学前の意識	5	願書を書くときに、しっかり確認した。 ３温かい人間関係とあるが、良好とせずあえてこの言葉を用いていることが、専攻科の特性を示していると感じた。	AP	4	最近は募集してもなかなか受けてくださる方があらわれない。 人材は、求める学生像として　人として温かい方 園児にも信頼され、保護者にも信頼されていると感じる。	最も役に立ったこと	コンピュータ演習では、書類作成や園のブログ更新、行事で使用する音楽の編集など、保育現場で必要となるパソコン操作について学ぶことができ、現在の業務で役立っています。 また、音楽活動ではピアノや音楽表現について学び、発表会や日々の保育活動の中で活かされています。 さらに、保育経営論では、様々な園を見学する機会があり、それぞれの園の特色や保育の工夫を知ることができたことで、自分の保育を見つめ直し、よりよい保育を考える視点につながっています。
		入学前の目標としての適切さ	5					教育内容に対する希望	現場での経験があったことで、授業での学びをより具体的に考えることができ、大変有意義な２年間だったと感じています。現在のところ、大きな要望は特にありません。
	所感	今回、意見を出してくれた学生たちのポリシーの読み込み度と語彙力の豊富さに感心させられた。これも学修成果の一つとしてとらえたい。			所感	短期大学の求める学生像とは、すなわち保育者の人材像であると言及されている。		所感	当該学生の学びの深さに、改めて感じ入ることができた。特に自分の保育を探し続ける姿勢に大きな共感を覚えるものである。